

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.151

12|1
2019・2020



撮影:末武和人

CREATOR'S VOICE 170
一柳慧

一柳慧プロデューサー
フラックス弦楽四重奏団

年末公演特集 ～心豊かに年を締めくくる師走の5公演～
舞台芸術講座 オルガン&チェンバロ、二つの楽器を聴き比べ！
魂が紡ぐ至高のロシア・ピアノリズム——エリソ・ヴィルサラージェ ピアノ・リサイタル

隔月刊:奇数月15日発行

彼らはどんな曲も、躊躇なく、のびのびと弾いてしまう。フラックスは、上手いのに自由なカルテットです。

開館45周年記念 一柳慧プロデュース フラックス弦楽四重奏団 現代を生きる音楽 II -New Sounds from NY-

神奈川県民ホール

一柳 慧

作曲家・神奈川芸術文化財団芸術総監督



2020年1月、フラックス弦楽四重奏団（以下フラックス）がアメリカ音楽プログラムと、オール一柳プログラムの二つを携えて横浜に帰ってくる。しかも今回は、演奏会だけでなく、現代音楽をめぐるシンポジウム、そして若手作曲家への作品公募と公開リハーサルなども含めた、ミニ・フェスティバルといった様相を呈する予定。プロデューサーを務める一柳芸術監督に、この四重奏団の魅力、そして企画全体について語ってもらった。

自在、奔放、精緻

——フラックスの来日が近づいてきましたが、一柳さんから見て、彼らはどんなカルテットなのでしょう。

普通のカルテットというのは、4人が常にながちりとチームを組んで、緊密なアンサンブルを披露する、という感じでしょう。もちろんそれはそれで素晴らしいんだけど、ちょっと閉鎖的な印象を受けることもあります。一方でフラッ

クスの場合には少し違っていて——おそらく世界的にもこうした傾向が少しずつ増えてきているように感じるのですけれども——とても開放的なんですね。彼らの活動を見ていると、いつも4人でやっているわけではなくて、その中の二人でデュオをやったり、一人がオーケストラのソリストを務めたり、実に自由な感じなんです。

——現代音楽を専門的に扱うカルテットとしては、アルディッティやクロノスが有名ですが、彼らとの違いはどんなところにありますか。

そうですね、アルディッティは素晴らしい団体だけれども、やはりヨーロッパの前衛的な音楽がレパートリーの中心にあります。一方、クロノスはいろいろな音楽をやるけれども、とりわけロックをアレンジしたり、ポピュラー音楽的なセンスがあるあたりが大きな特徴でしょう。フラックスの場合には、これらのどちらとも異なっていて、なんとというか、



一柳 慧 Toshi Ichiyangi

神戸生まれ。19歳で渡米、ジョン・ケージと偶然性や図形楽譜による音楽活動を展開。尾高賞、フランス芸術文化勲章、毎日芸術賞、京都音楽賞大賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞および恩賜賞等受賞多数。2008年より文化功労者、18年には文化勲章を受章。神奈川芸術文化財団芸術総監督。



とてもアメリカ的な団体なんですね。

——アメリカ的、というところ……？

プログラムの中心がアメリカの作曲家ということもあるんですが、面白いことに、彼らが得意にしているのは、コンロン・ナンカロウやエリオット・カーターのようなすごくテンポが速くて複雑な曲と、逆にモートン・フェルドマンのように時には「数時間かかるような、すごく遅い曲なんですよ（笑）。この極端さに加えて、メンバー4人は台湾の方が二人、そしてアメリカ、カナダが一人ずつというあたりにも、アメリカ的な性格を感じます。

——今回のアメリカ・プログラムでは、古典のバルトークをのぞくと、すべてアメリカ人作曲家です。なんと、カルテットのリーダーのトム・チウによる作品も入っていますね。

そう、私はまだ聴いていないのですが、ちょっと楽しみですね。このチウさん、台湾出身なだけけれど、ユニークな人なんです。よく喋るし、いつも仕切り役を務めているんですが、突然に楽器を弾きだしたりと、まあ奔放なんです。一方、チェロのフェリックス・ファンは冷静な人。この台湾出身のふたりの間を、北米出身の二人ががちりと固めているという感じでしょうか。

——以前の来日では、一柳さんの作品も演奏されていますが、どんな印象でしたか？

いや、本当に驚きましたね。私の「インナー・ランドスケープ」という曲は技術的に決して易しくはないんだけど、ちょっと今まで聴いたことがないくらい見事なものでした。実際に演奏を体験した、何人かの友人の音楽家たちもみな、そう言っていました。曲の印象が変わるくらいだったと。

——技術的に正確ということですか？

もちろん、技術的な水準はものすごく高いです。それなのに、いわゆる「クラシック的」に、ただきちり合わせようとするわけではなくて、つまり、上手いの自由なんです。私の曲には、途中で不確定的な（ある程度は奏者の自由になる）部分が出てきますが、そうしたところも、躊躇なく、のびのびと弾いてしまう。なかなか普通はそうならないんですけどね。

一柳慧、弦楽四重奏曲の軌跡

——今回、一柳さんの弦楽四重奏曲が全曲演奏されるわけですが、この中ではまず、最初の「0番」（弦楽四重奏曲「1957」）が珍しい。

ニューヨークでジュリアード音楽院に



神奈川県民ホール 開館45周年記念

一柳慧プロデュース フラックス弦楽四重奏団

現代を生きる音楽 II -New Sounds from NY-

神奈川県民ホール(小ホール)

出演:トム・チウ(ヴァイオリン) コンラード・ハリス(ヴァイオリン) マックス・メンデル(ヴィオラ) フェリックス・ファン(チェロ)

エリザベス・オゴネク(招待作曲家)

●コンサート① 系譜 -Family Tree of American Composers

2020年1月11日(土) 15:00

ナンカロー:弦楽四重奏曲 第3番 / オゴネク:ランニング・アット・スティル・ライフ / バルトーク:弦楽四重奏曲 第5番 他

●コンサート② 一柳慧 弦楽四重奏曲 全曲演奏会

2020年1月18日(土) 15:00

全席指定 一般4000円 セット券(1/11&1/18)7000円 学生(24歳以下・枚数限定)1000円

*公演に関する詳細はP8をご覧ください。

www.artspress.jp

WEB
+a!このマークの記事
にはWEB版だけの
+αコンテンツも!

通っていた時の作品です。私がアメリカに行く前、すでに諸井誠さんや入野義朗さんが十二音技法(シエンベルクが考案した、無調の作曲技法の曲を作っていてかなり興味があったんです。で、アメリカでもそうした作曲技法を学んでみたいと思ったんだけど、当時のジュリアードの作曲科にはそれを教えてくれる作曲家は誰もいなかった。むしろ、ピアノを教えてもらっていたウエブスターという人が現代の音楽にははるかに詳しくて、いろいろ相談のつてくれました。

——ほとんど独学で、十二音技法を使って書いたわけですね。

ええ、ジュリアード弦楽四重奏団が、学生向けの小さなホールで初演してくれました。まあ、確かにジュリアードには通っていたけれども、あの頃はニューヨークにもすごい活気があって、街全体が学校のようなものでしたね。マジソン・アベニューやレキシントン・アベニューのあたりは、プティックが並ぶみたいにして最先端の画廊が軒を連ねていたりして……何もかもが刺激的でした。

——不確定な記譜法が使用された「第1番」は1964年の作品ですが、そのあと20年以上、弦楽四重奏曲をお書きにならなかつたはずでしょう。

特に理由はないのですが、考えてみれば、その頃の日本には不確定的、偶然的なものに対して十分に理解のある弦楽器奏者が少なかったということはあるかもしれませぬね。カルテットの形で新しいことをやっているグループは少なかった。

——第2番「インナー・ランドスケープ」(1986)から第4番「森の中で」(1999)までは演奏機会もほぼありませんが第5番(2018)というのは？

これは昨年、カリフォルニアの夏のフェスティバル(ラ・ホイヤ サマーフェスティバル2018)で、フラックスが初演するために書いた作品なんです。だから私もまだ生演奏で聴いたことはありません。弦楽四重奏の場合には、和音を鳴らすというよりは、横の流れ、対位法的な流れが大事になるわけで、私の場合にはそれが水の流れのように移動しているというイメージなんです……特にこの「第5番」はそうした曲になっていると思います。実は今回、彼らの演奏は日本でCD化される予定で、6曲全部をライブ録音というのは、かなり大変なはずですが、ただ、この4人だったら意外に平気でやっちゃつような気もするんですよ。

——演奏会のほかに、今回は若い人を対象にした作曲賞もありますね。

私はベートーヴェンの四重奏曲も好きなんですけど、しかし今カルテットを書くとしたら、同じようなものを書くわけにはいかないわけですよ。若い人で、これまでのオーソドックスなカルテットとは違うものを書いてくれる人がいたらいいなと。まだ経験の浅い人の方が、むしろ根本的なところから四重奏を考え直すとも思うし、そうした作品をフラックスが弾いたら、きっと、素晴らしいものになるでしょうね。

my hall myself

私にとっての神奈川県民ホール

県民ホールの大ホールは、神奈川で本格的なオペラができる代表的な場所です。小ホールにはオルガンもある。一方で、このギャラリーは神奈川でもいちばん大きくて、実にいいスペースなんです。私は普段からいろいろな芸術ジャンルの垣根をこわしたいと思ってるので、ホールだけでなく、ギャラリーも使って、これまでに色々なことをやらせてもらいました。こうした複合的な性格が、県民ホールの魅力ですね。

取材・文:沼野雄司桐朋学園大学教授、県民ホール音楽堂芸術参事、第29回吉田秀和賞受賞撮影:末武和人



「メサイア」過去の公演より

©青柳 聡



©青柳 聡



松山バレエ団「くるみ割り人形」



下野竜也

©Naoya Yamaguchi (Studio Diva)

荻野由美子

©Y.Yagyu 石井喜久子

歓びの感動に包まれる年末を 心豊かに年を締めくくる師走の5公演

神奈川県民ホール

神奈川県立音楽堂

令和元年も晩秋を迎え、年末の過ごし方に心を馳せる季節となりました。この年の瀬は、日々の喧騒を離れて、ひとときの清らかな歓びに包まれて過ごしたい。神奈川県民ホールと神奈川県立音楽堂では、そんな思いをかなえてくれる珠玉の5公演をご用意しています。

幸せなクリスマスのための3公演

半世紀を越え親しまれている、音楽堂伝統のクリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会が、改修を終えた県立音楽堂に1年ぶりに帰ってきます(12月15日)。救世主の降誕と受難、その復活と永遠の生命を声と管弦楽が劇的に、また輝かしく讃えられ宗教曲、オラトリオの最高峰ともいわれるヘンデルの「メサイア」。演奏は、今年も小泉ひろし指揮神奈川県フィルハーモニー管弦楽団、第一線で活躍する歌手陣が揃います。合唱は、神奈川県合唱連盟と、「メサイア」の伝統を継承すべく県内5高校の合唱部が今年も参加。木のぬくもりある音楽堂を清冽なハーモニーで満たそうと、目下練習に邁進中です。世代を越えた総勢120人超の大合唱による感動の「ハレルヤ・コーラス」に心震わせてください。

県民ホールでは、12月7日に松山バレエ団 Xmas 公演「くるみ割り人形」全幕を

上演。少女クララの成長のプロセスを描く清水哲太郎の振付・演出は、何度観ても感動もの。未来を夢見る少女少女とかつての少年少女だった保護者の方々、ご家族一緒に楽しみたい舞台です。

クリスマス直前の金曜日にはオルガン・クリスマスコンサート(12月20日)。県民ホール・オルガン・アドバイザーの荻野由美子が日本を代表する打楽器奏者、石井喜久子を迎え心踊るひとときをお届けします。パツハの「パツカリア」やラウエルの「ボレロ」など、巡る音楽で彩る、とびっきりのクリスマスコンサートをお楽しみください。

県民ホールで華やか年末2公演

神奈川県立音楽堂特別演奏会ヘートゥエン「第九」は12月21日に開催。今年の指揮者は、音楽作りへの真摯な姿勢で高い評価を得る実力派、下野竜也。ソリストは林美智子(メソソプラノ)ら強力な布陣でお届けします。日本各地であまた開催される年末の「第九」ですが、こだわりポイント「第九」のカップリング曲として選曲された、チエコの作曲家マルティヌーの「リディツェへの追悼」(1994)。第二次世界大戦中にナチスによって虐殺された村、リディツェをテーマとする交響詩です。世界があまたの対立と緊張を抱え込

● 第54回クリスマス音楽会「メサイア」全曲演奏会

2019年12月15日(日) 14:30 神奈川県立音楽堂

出演:小泉ひろし(指揮)
 山口清子(ソプラノ) 上杉清仁(カウンターテナー)
 中嶋克彦(テノール) 加来 徹(バリトン)
 長久真実子(チェンバロ) 宇内千晴(オルガン)
 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
 神奈川県合唱連盟
 音楽堂「メサイア」未来プロジェクト合唱団
 (神奈川県立光陵高等学校、県立相模原中等教育学校、
 県立逗子高等学校、県立多摩高等学校、法政大学第二
 高等学校 各合唱部)
 全席指定 1500円 車椅子席1500円(付添1名無料)



宮本益光

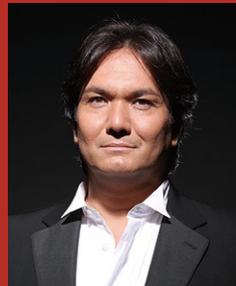


幸田浩子



上野水香

©Kiyonori Hasegawa



ジョン・健・ヌッツォ

● 松山バレエ団「くるみ割り人形」全幕

2019年12月7日(土) 15:00 神奈川県民ホール(大ホール)

振付・演出:清水哲太郎
 出演:山川晶子 本多裕貴 松山バレエ団
 河合尚市(指揮)
 東京ニューフィルハーモニック管弦楽団
 全席指定 S 10000円 Sペア17000円
 A 8000円 Aペア12000円 B 5000円 C 3000円
 Sシニア(60歳以上)8000円 Sシニアペア(60歳以上)15000円
 S子供券(3歳~小6)5000円 S親子券(S+子供券)13500円
 学生(Cのみ・中学生~24歳までの学生)2000円 ※3歳以上入場可
 松山バレエ団公演事務局 03-3408-7939 (10:00~18:00)

● オルガン・クリスマスコンサート

2019年12月20日(金) 19:00 神奈川県民ホール(小ホール)

バッハ:パッサカリア ハ短調 BWV582 ★
 ラヴェル(編曲:荻野由美子/石井喜久子):ボレロ ★◆
 松下倫士:クリスマスの贈り物 ★◆ 他
 出演:荻野由美子(オルガン)★ 石井喜久子(打楽器)◆
 全席指定 一般3500円 ペア(一般2枚)6500円
 学生(24歳以下・枚数限定)2000円

● 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 特別演奏会
 ベートーヴェン「第九」

2019年12月21日(土) 15:00 神奈川県民ホール(大ホール)

マルティヌー:リディツェへの追悼
 ベートーヴェン:交響曲第9番 二短調 Op.125 「合唱付き」
 出演:下野竜也(指揮)
 石橋栄実(ソプラノ) 林美智子(メゾソプラノ)
 谷口洋介(テノール) 久保和範(バリトン)
 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
 神奈川フィル合唱団
 全席指定 S 7000円 A 5500円 B 4000円
 シニア(65歳以上)各席種より10%引
 ユース(25歳以下)各券種より半額
 神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10:00~18:00)

● ファンタスティック・ガラコンサート 2019

2019年12月29日(日) 15:00 神奈川県民ホール(大ホール)

オペラ『セピリアの理髪師』より「私は町の何でも屋」
 オペレッタ『こうもり』より「侯爵様、あなたのような御方は」
 オペラ『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」
 バレエ『白鳥の湖』より「黒鳥のグラン・パド・ドゥ」 他
 出演:松尾葉子(指揮) 宮本益光(司会・バリトン)
 幸田浩子(ソプラノ) ジョン・健・ヌッツォ(テノール)
 上野水香/秋元康臣/ブラウリオ・アルバレス(東京バレエ団)
 石田泰尚/荒井里桜(ヴァイオリン)
 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 他
 全席指定 S 8000円 Sペア 15000円 A 6000円
 B 4000円 C 3000円 学生(24歳以下・枚数限定)2000円



「ファンタスティック・ガラコンサート2018」より

©Kiyonori Hasegawa

んだ今日、人類愛を謳う「第九」の「歓喜の歌」は、カプリング曲とともにさらなる深みをもつ響き渡ることでしょう。

年末の白眉は、やはり12月29日開催のオペラ&バレエの祭典「ファンタスティック・ガラコンサート」。今年のテーマは「ウィーン」と「オリンピック」。日本オーストリア友好150周年にちなんだ音楽の都ウィーンや、日本開催が迫るオリンピックの近年の開催国にまつわる曲をお贈りします。出演の顔ぶれをご紹介します。

プリマドンナ幸田浩子と「ガラ」初登場となるジョン・健・ヌッツォ。ウィーンのプロクストオーパーや国立歌劇場で活躍してきた二人がウィーンの香りを舞台に届け

てくれます。さらにバリトンの「王子」と宮本益光が、モーツァルトのアリアを熱唱するとともに、昨年につづき司会役もつとめマルチタレントぶりを発揮してくれます。神奈川フィルのソロコンサートマスターであり、ソリストとしても絶大な人気を誇るヴァイオリンの名手、石田泰尚のスペシャルセッションも必聴です。東京バレエ団からはプリンシパル上野水香と秋元康臣が、さらに名門ハンブルク・バレエでも活躍したブラウリオ・アルバレスが出演。松尾葉子指揮神奈川フィルの迫力の演奏とともに、華麗に舞い踊ります。

贅を尽くしたときめきの公演で、心弾む年の瀬をお過ごしください。

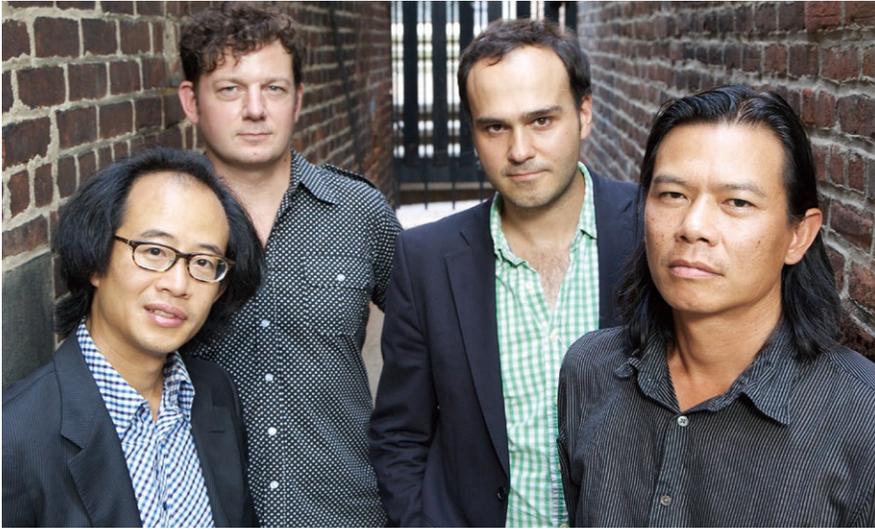


一柳慧プロデュース フラックス弦楽四重奏団

神奈川県民ホール

現代音楽の寵児が待望の再来日! 関連企画も充実!

FOCUS



フラックス弦楽四重奏団(左より トム・チウ、コンラード・ハリス、マックス・メンデル、フェリックス・ファン)



一柳 慧 (作曲家・ピアニスト) ©Koh Okabe



エリザベス・オゴネク (作曲家)

神奈川県民ホール 開館45周年記念 一柳慧プロデュース
フラックス弦楽四重奏団

現代を生きる音楽 II -New Sounds from NY-
(小ホール)

出演: トム・チウ(ヴァイオリン) コンラード・ハリス(ヴァイオリン)
マックス・メンデル(ヴィオラ) フェリックス・ファン(チェロ)
エリザベス・オゴネク(招待作曲家)

●コンサート① 《系譜》-Family Tree of American Composers

2020年1月11日(土) 15:00

ナンカロー: 弦楽四重奏曲 第3番

オゴネク: ランニング・アット・スティル・ライフ

バルトーク: 弦楽四重奏曲 第5番 他

●コンサート② 《一柳慧 弦楽四重奏曲 全曲演奏会》

2020年1月18日(土) 15:00

全席指定 一般4000円 セット券(1/11&1/18)7000円

学生(24歳以下・枚数限定)1000円

●関連企画

・ワークインプログレス① & 公開リハーサル

2020年1月9日(木) 19:00

公募作品によるワークインプログレスと、招待作曲家エリザベス・オゴネク「Running at Still Life」のリハーサル公開。

・ワークインプログレス② & ショートQ&A

2020年1月12日(日) 14:00

・シンポジウム & ワークインプログレス(作品初演)

2020年1月13日(月・祝) 14:00

日米の現代音楽の現状と展望、作品委嘱等についてのシンポジウムと公募作品初演。

登壇者: 一柳 慧 トム・チウ エリザベス・オゴネク 他

司会: 沼野雄司(音楽学者、神奈川県民ホール・音楽堂 芸術参与)

料金: 各500円(当日払い・予約不要)

※1/11、1/18の本公演チケットをお持ちの方は無料

神奈川県民ホールでは、開館45周年を記念して一柳慧(作曲家・ピアニスト・神奈川県民ホール芸術文化財団芸術総監督) プロデュースによるフラックス弦楽四重奏団 来日公演を行います。招待作曲家エリザベス・オゴネクのほかアメリカの現代作品を集めた彼らのオリジナルプログラム(1/11)と、今回が日本初演となる第5番(2018)を含む一柳慧弦楽四重奏曲全曲演奏会(1/18)、どちらのプログラムも聴き逃しません。関連企画も充実しており、ワークインプログレスや公

開リハーサル、シンポジウムなど盛りだくさんのイベントが予定されています。ワークインプログレスで演奏される弦楽四重奏曲の公募には国内外から応募があり、「既成概念にとらわれないまったく新しい作品」との選考基準から作品が選ばれました。ふだんはベールに包まれている作曲家と演奏家によって作品を創り上げる空間を共有すれば、現代音楽への理解が一層深まること間違いありません。関連企画の詳細については神奈川県民ホールのホームページをご覧ください。

舞台芸術講座

オルガン「フーガの技法」～謎と魅力～

●第1回「フーガの技法」の謎と魅力に迫る～概論～

2020年2月16日(日) 14:00 〈6階大会議室〉

講師：那須田務(音楽学者) 聞き手：荻野由美子

●第2回 フーガとはどんなもの? ～楽曲分析～

2020年3月7日(土) 14:00 〈6階大会議室〉

講師：久行敏彦(作曲家) 聞き手：荻野由美子

●第3回 オルガン&チェンバロ 聴き比べ

2020年4月17日(金) 14:00 〈小ホール〉

講師：荻野由美子/早川幸子/柳澤文子(オルガン&チェンバロ)

全席自由 1回券1000円 通し券2000円

11月16日(土) 一般発売

舞台芸術講座

チェンバロの魅力VII「Mélanger ～混ぜる」

2020年3月21日(土) 14:00 〈小ホール〉

出演：大塚直哉(チェンバロ・お話) 宮田まゆみ(笙)

J.S.バッハ：パルティータ第2番 ハ短調 BWV826

F.クープラン：「クラヴサン曲集第2巻」より 第8オールドル

一柳 慧：笙とハーブシコードのための「ミラーージュ」他

全席指定 一般2000円 学生(24歳以下・枚数限定)1500円

11月16日(土) 一般発売



柳澤文子



那須田務



早川幸子



久行敏彦



荻野由美子

©Y.Yagyu



宮田まゆみ



大塚直哉(2018年「チェンバロの魅力VI」より)



舞台芸術講座 オルガン「フーガの技法」&チェンバロの魅力

神奈川県民ホール

オルガン&チェンバロ、二つの楽器を聴き比べ!

音楽や楽器のことをもつと知りたいたい! そんな知的好奇心を刺激し、未知なる世界への扉を開く「舞台芸術講座」シリーズから、神奈川県民ホールの所有する二つの楽器、オルガンとチェンバロに親しんでいただける二つの講座をご紹介します。

バッハの最高傑作
『フーガの技法』を大解剖!

「音楽の父」として誰もが知るJ.S.バッハは、膨大な作品を生み出しましたが、中でも、対位法の最高傑作である『フーガの技法』は、その芸術性の高さとも未だ解明されない多くの謎ゆえに特に知的好奇心をくすぐる作品です。2月から4月にかけて全3回にわたりお届けするオルガン講座では、さまざまな角度からその謎と魅力に迫ります。

第1回は、音楽学者の那須田務を迎え、「未完の絶筆」といわれる『フーガの技法』は本当に未完なのか? いつ、何のために書かれたのか? その謎を紐解きます。

第2回は、作曲家の久行敏彦が楽譜と音源を用いながら、フーガという形式の魅力や、バッハのフーガに至る道、「フーガの技法」が放つ魅力を分析します。

ラストを飾る第3回は「オルガン&

チェンバロ聴き比べ」。神奈川県民ホール・オルガン・アドバイザーの荻野由美子が、二人のオルガン奏者、早川幸子と柳澤文子とともに、オルガンとチェンバロで『フーガの技法』を弾き比べます。パイプII笛に風を送って音を鳴らすオルガンと、弦をはじいて音を出すチェンバロ。全く異なる印象を与える二つの楽器で、対位法の魔術師バッハが音楽家人生の集大成として編纂した『フーガの技法』をお楽しみください。

チェンバロと笙の出会い

大塚直哉の演奏とわかりやすい解説が人気のレクチャーコンサート「チェンバロの魅力」。第7弾は、東洋の楽器、笙(しょう)を国際的に広めた第一人者、宮田まゆみをゲストに迎えてお届けします。テーマは「Mélanger ～混ぜる」。古いフランスの様式で丁寧につくられた神奈川県民ホールのチェンバロと、息を吹き入れたり吸ったりして音を鳴らす日本の伝統楽器、笙。ヨーロッパとアジアの二つの楽器の音色が美しく混ざり合う、一柳慧作曲笙とハーブシコードのための「ミラーージュ」は必聴です。春の午後、二つの繊細な楽器の音色に身を委ね、贅沢なひとときをお過ごしください。

2020年1月13日(月・祝) 15:00

出演:エリソ・ヴィルサラゼ

チャイコフスキー:「四季」Op.37b より

プロコフィエフ:風刺(サルカズム) Op.17

プロコフィエフ:トッカータ ニ短調 Op.11

シューマン:ノヴェレット Op.21 第8番 嬰へ短調

シューマン:幻想曲 Op.17

全席指定 一般6000円 学生(24歳以下・枚数限定)3000円

シルバー(65歳以上・枚数限定)5500円(売切)

*詳細は音楽堂HPをご確認ください。



エリソ・ヴィルサラゼ

©Nikolai Pushtin

音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ26 エリソ・ヴィルサラゼ ピアノ・リサイタル

神奈川県立音楽堂

魂が紡ぐ至高のロシア・ピアノニズム

エリソ・ヴィルサラゼがついに音楽堂にやってくる。ネイガウスやザークラに学び、リヒテルにも薫陶を受けた彼女の演奏には、ロシア・ピアノニズムの伝統が脈々と受け継がれている。その特徴でもある完璧無比な演奏技巧と音の響きの美しさ、表現の精妙さとともに、彼女の音楽には熱い想いと確固とした信念が貫く。期待のリサイタルでは、彼女の十八番とする作曲家の作品が並ぶ。ロシアの二大音楽院を創設したアントン&ニコライ・ルビンシテインからチャイコフスキーへと継承されたロシアの音楽教育は、

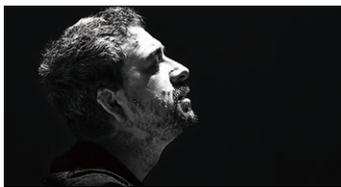
ヴィルサラゼのなかにも深く息づいている。そんな彼女は、チャイコフスキーの音世界をどのように聴かせてくれるだろうか。また、プロコフィエフの生きた時代を経験した彼女は、革命前の同時期に初演された「トッカータ」と「サルカズム」を選曲。これらの作品にはプロコフィエフ特有の力動的なリズム感と風刺的でクールな感性が潜む。そして後半は、彼女が得意としているシューマン。いずれの作品も彼と恋人クララとの恋愛時期の創作であり、深いロマンティズムとともに、複雑な心の動きが音楽の中で絡まり合う。

70代後半にさしかかったヴィルサラゼ。圧倒的な迫力とともに透明なリズムを混ぜたプロコフィエフ、そしてシューマンでは聴く者を瞬く間にファンタジーの奥深くへと惹き込んでゆく。さまざまな思考や感情の交錯する彼らの声にヴィルサラゼは耳を傾け、強靱な指を駆使して輻輳した音のラピリンスを解きほぐし、音楽の流れを描き分ける。その演奏を特色づけるのは、彼女の知性と広いパースペクティヴである。深い思索を経た彼女の演奏には、強い説得力と使命感が漲っている。

道下京子(音楽評論)

音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ27 コンスタンチン・リフシツツ(ピアノ) ベートーヴェンへの旅 vol.2「悲愴」

神奈川県立音楽堂



コンスタンチン・リフシツツ ©Sona Andreyasyn



2020年4月26日(日) 15:00

出演:コンスタンチン・リフシツツ

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第2番、第7番、第12番「葬送」、第8番「悲愴」

全席指定 一般5000円 学生(24歳以下・枚数限定)2500円

シルバー(65歳以上・枚数限定)4500円

KAme会員先行11/23(土) 一般発売12/15(日)

◎音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ 2020-2021シーズン・セット券

2020年 ①4/26(日)リフシツツ(Pf) ②6/25(木)ギル・シャハム(Vn)

③10/3(土)クロノス・カルテット テリー・ライラー「サン・リングス」日本初演

2021年 ④1/30(土) ⑤1/31(日)スティーヴン・イッサーリス室内楽プロジェクト

*全5公演同時購入セット券を販売予定(1/13-4/25期間・枚数限定割引)

*詳細は音楽堂HPをご確認ください。

ベートーヴェン生誕250周年にあたる2020年、若いころから「ホロヴィッツの再来」と注目され、音楽堂でも名演を聴かせたコンスタンチン・リフシツツが、首都圏の音楽ホール8館をめぐり、楽聖ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲を演奏する「大プロジェクト」を行います。22年ぶりとなる音楽堂では「葬送」「悲愴」等をじっくり聞かせることでしょうか。8公演すべての会場でスタンプを集めると豪華プレゼントも。来年のGWは、今世紀の巨匠の呼び声高いリフシツツとともにめぐる「ベートーヴェンへの旅」を計画してみたいかがでしょうか。



2019年2月ルクセンブルク初演より

©Silvia Delmedico

2020年1月25日(土) 14:00

原作:川端康成「無言」 作曲・指揮:アレクサンドル・デスブラ
 台本:アレクサンドル・デスブラ/ソルレイ 演出・映像:ソルレイ
 美術・照明:エリック・ソワイエ 衣裳:ピエルパオロ・ピッチョーリ
 演奏:アンサンブル・ルシリン

出演:ジュディス・ファー(ソプラノ) ロマン・ボックラー(バリトン)
 ローラン・ストッカー(コメディイフランセーズ・語り)

全席指定 一般6000円 学生(24歳以下)3000円 シルバー(65歳以上)5500円



川端康成の短編「無言」を原作として、映画音楽の巨匠アレクサンドル・デスブラ(「ハリイ・ポッターと死の秘宝」英国王のスピーチ等で知られ、「グラント・ツダペスト・ホテル」「シェイブ・オブ・ウオーター」でアカデミー賞受賞)が満を持して書き下ろした初のオペラ。今年2月、3月にヨーロッパで上演された作品が、早くも日本で初演。ルクセンブルクを拠点とする世界最高峰の現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ルシリン」による演奏のほか、「ヴァレンティン」のデザイナー、ピッチョーリによる衣裳など、あらゆるジャンルのトップ・アーティストが集結した「今まさに観るべき舞台」、ぜひご期待ください。

開館65周年 音楽堂室内オペラ・プロジェクト

バロック・オペラ ヘンデル「シッラ」全3幕

2020年2月29日(土)・3月1日(日) 14:00 神奈川県立音楽堂

ピオンディによるプレトーク 13:15~

全席指定 S15000円 A12000円 B10000円 学生(24歳以下)8000円

ヘンデル「シッラ」全3幕
3つの関連企画を開催!

神奈川県立音楽堂



ファビオ・ピオンディ(音楽監督)

「音楽と美術のつながり/音楽から生まれる美術」
 2020年2月16日(日) 14:00~17:00
 会場:黄金町高架下スタジオ Site-D 集会場
 ※詳細はウェブサイトやチラシをご覧ください。

日本初演が話題沸騰中のヘンデル「シッラ」。上演に先駆けてオペラがもつと楽しくなる関連企画の開催が決定。アートのベースでの開催にも注目です!

- レクチャーコンサート
「ヘンデルと謎のオペラ『シッラ』〜古代ローマの物語」
2020年1月8日(水) 14:00開演
会場:横浜市民ギヤラリー アトリエ
- マスタークラス
「ヘンデル声楽作品の発音と様式を学ぶマスタークラス」
2020年1月9日(木) 14:00~17:00
会場:神奈川県立音楽堂
- 舞台美術ワークショップ
「音楽と美術のつながり/音楽から生まれる美術」
2020年2月16日(日) 14:00~17:00
会場:黄金町高架下スタジオ Site-D 集会場
※詳細はウェブサイトやチラシをご覧ください。



ブルーオーロラ サクソフォン・カルテット

©ノザワヒロミチ(CAPSULEOFFICE)

2020年3月20日(金・祝) 14:00

出演:ブルーオーロラ サクソフォン・カルテット

全席指定 一般3500円 学生(24歳以下)2500円

[同日開催]

・ホワイエにてマルシェ開催(10:00~夕方)

・前川建築ツアー in 音楽堂(HPIにて要予約)

音楽堂アフタヌーン・コンサート
ブルーオーロラ サクソフォン・カルテット

神奈川県立音楽堂

軽妙なトークとともに音楽と過ごす楽しい午後をお届けする音楽堂アフタヌーンシリーズに、サクソフ界のトップを走る平野公崇が、ソロでも引張りだこの若手とともに結成したブルーオーロラサクソフォン・カルテットがいよいよ登場! ソプラノからバリトンまで多彩な音色のサクソフォンを自在に操り、精緻で比類のないアンサンブル、美しいハーモニーで聴くもの見るものを虜にします。グルーブ名の由来となった武満徹「柳慧のためのブルーオーロラ」をはじめ、バッハからベートーヴェンの名曲「月光」、なつかしい日本の歌まで、サクソスの魅力全開で聴かせます! きつと貴方もサクソスに恋するはず!



2020年3月20日(金・祝) 15:30 <大ホール>

台本・振付・演出:清水哲太郎

音楽:P.I. チャイコフスキー

出演:森下洋子(オデット&オディール) 松山バレエ団

河合尚市(指揮) 東京ニューフィルハーモニック管弦楽団

全席指定 S 10000円 Sペア19000円 A 7000円

B 5000円 C 3000円 子ども・学生(3~24歳・枚数限定) 2000円

※3歳未満のお子さまはご入場いただけません。



松山バレエ団 新「白鳥の湖」全4幕

神奈川県民ホール

名門・松山バレエ団が贈る、
超大作バレエ・ファンタジー!



森下洋子

名門・松山バレエ団が1994年に発表し、その後も進化し続ける壮大な新「白鳥の湖」が、25年ぶりに神奈川県民ホールに登場します!

チャイコフスキー三大バレエの中でも最も古く有名な「白鳥の湖」は、古典バレエの傑作として愛され続ける一方で、多くの

振付家にインスピレーションを与え、様々な演出や改訂版が生み出されてきました。松山バレエ団が1994年に発表した新「白鳥の湖」は、神聖ローマ帝国を舞台にした壮大な愛の物語です。皇太子ジークフリードは、魔王ロットバルトの呪いで白鳥に姿を変えられた皇女オデットと、湖畔で運命的な出会いを果たしますが、翌日の戴冠式で新皇帝となったジークフリードの前に、ロットバルトがオデットに瓜二つの王女オディールを連れて現われ、惑わされたジークフリードは彼女に愛を誓い、皇妃として戴冠させてしまいます。真実を知ったジークフリードは、オデットと真の愛を貫き通し、オデットと王国を救うために死を賭して魔王に挑みます。白鳥たちの幻想的な舞い、絢爛豪華な舞踏会、魔王ロットバルトとのスリリングな闘いなど、見どころが満載の新「白鳥の湖」。壮大なスケールで描かれた愛の物語が、オーケストラの生演奏による美しい音楽とドラマティックに絡み合い、観る者を夢の世界へと誘います。儂く繊細な白鳥オデットと妖艶な黒鳥オディールを演じ分ける、世界のプリマ・森下洋子の圧倒的な表現力も必見。松山バレエ団総出演でお贈りする超大作に、どうぞご期待ください!



撮影:下坂敦俊

劇団四季ミュージカル 「マンマ・ミーア!」2020年3月開幕!

KAAT神奈川芸術劇場

世界中の人々から世代を超えて愛されるポップグループ「ABBA」のヒットナンバーで構成されたミュージカル『マンマ・ミーア!』。「ダンシング・クイーン」「チキチータ」など、誰もが一度は耳にしたことのあるお馴染みの名曲にのせて綴る母娘の絆と友情の物語は、観る人のすべての心をもろく照らします。

2016年東京公演以来、3年半ぶりに上演される『マンマ・ミーア!』横浜公演に、どうぞご期待ください!



2020年3月28日(土)~8月10日(月・祝)

出演:劇団四季

全席指定 S 11000円 A・サイドA 8800円 B・サイドB 6600円 C・サイドC 3300円

サイドイス付立見 3300円 ※公演当日3歳以上有料(膝上観劇不可)。2歳以下の入場不可。

2020年3月28日(土)~6月30日(火)公演分 KAmE会員先行12/8(日) 一般発売12/14(土)

個性、
とことん
舞台、
ぞくぞく。

ともに生きる ともに創る
共生共創事業

神奈川県では、年齢や障がいなどにかかわらず、全ての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。



横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」& 綾瀬シニア劇団「もろみ粧座」中間発表開催!!



横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」稽古風景

©bozzo

今年立ち上がったばかりの横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」と綾瀬シニア劇団「もろみ粧座」が毎週の稽古で劇団としての結束力と演劇の技術を磨いています。その両劇団が3月の本公演の前に、今までの活動の成果を発表する中間発表。横須賀シニア劇団は11月2日、県民共済みらいホールにて『こんな外郎売り観たことない!』を行いました。綾瀬シニア劇団は12月に『ヤーーーーーッ!』を開催します。今回の中間発表を経て、3月の本公演に向けてさらにパワーアップするシニア劇団をお見逃しなく!!

綾瀬シニア劇団「もろみ粧座」中間発表『ヤーーーーーッ!』

2019年12月19日(木) 14:00 県民共済みらいホール

全席自由・入場整理番号付 一般1000円



横浜並木男声合唱団

「歌って、踊れる!」「華麗に躍動するステージ!」——そんな新しい合唱のスタイルのパイオニア、横浜並木男声合唱団がみらいホールに初登場! 観て楽しい、一緒に参加したくなる、そんな共生共創事業、特別プログラムをお届けします。

2020年1月19日(日) 13:00 県民共済みらいホール
第一部 コンサート
第二部 トーク&ワークショップ~心構えと実践~
全席自由・入場整理番号付 一般1000円

横浜並木男声合唱団コンサート
平均年齢72歳の男声合唱団が
歌って踊れる秘密

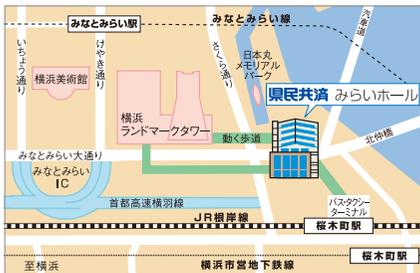


サルサガムテープ

NHK 5代目歌のお兄さんだったかしわ哲が、県の福祉施設を利用する方々に呼びかけて結成したロックバンドです。ポリバケツにガムテープを貼った手作り太鼓で自由なリズムセッションを奏でるロックは全ての壁を壊し、全てを受け入れる究極のバリアフリー。

2020年1月25日(土) 15:00 県民共済みらいホール
全席自由・入場整理番号付 一般2000円

サルサガムテープ LIVE 2020



access

県民共済 みらいホール 横浜市中区桜木町1-1-8-2 県民共済プラザビル1F

- JR 根岸線「桜木町」駅下車 徒歩約3分
- 横浜市営地下鉄「桜木町(県民共済プラザ前)」駅下車 徒歩約7分
- みなとみらい線「みなとみらい」駅下車 徒歩約10分

※一部事業について、別会場で実施するものもございますので、必ず会場をご確認ください。
※駐車場はございません。

主催：神奈川県 協力：神奈川県民共済生活協同組合 公式サイト kyosei-kyoso.jp

チケット予約：チケットかながわ 0570-015-415 (10:00~18:00)



フラックス弦楽四重奏団 ©堀田力丸

音楽の小箱

弦楽四重奏

知れば、
知るほど、
好きになる

クラシック音楽といえば豪華なオペラや管弦楽が思い浮かびますが、その核となるジャンルはヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロと簡素な編成の「弦楽四重奏」と言えるでしょう。

弦楽四重奏曲の始まりはハイドンが1781年に作曲した『ロシア四重奏曲』。ハイドンは、主題（短いフレーズ）を転調*という手段と連動させて多様に変化・展開していく「まったく新しい特別の方法」(ハイドン)で作曲し、その手法はクラシック音楽の構成原理となりました。と、書くとは少々難解ですが、文豪ゲーテが「4人の間で交わされる対話」と書いたように、4奏者の掛け合いに耳を澄ませば、会話劇のように時

にスリリングに時にウィットに富んだ音楽の流れが心に迫ってきます。

ハイドンの後継者ベートーヴェンは、弦楽四重奏でさらに革新的な表現を推し進めます。彼にとって管楽器も打楽器もない粉飾をそぎ落としたような弦楽四重奏は、作曲者が技術と精神力を尽くして自在に音を操り音楽上の実験を行う場であり、その伝統は今日まで受け継がれていると言えます。

今日、弦楽四重奏団は、世界各地で毎年のように結成され、過去の名作を演奏するとともに作曲家に新作を依頼するなど、日々このジャンルを刺激的なものにしています。

近年の傾向ですが、まとまりのあ

る調和のとれた演奏より、奏者間の丁々発止の掛け合いの妙に比重を置いた演奏が増えていますので、弦楽四重奏を聴くのなら奏者の息遣いを直に感じられる小ぶりで親密な会場がおすすめです。

神奈川県立音楽堂では11月末に世界最高峰のアルディッチェが、神奈川県民ホール小ホールでは1月に気鋭のフラックスと、二つの弦楽四重奏団が登場。フラックス弦楽四重奏団公演では現在、公募新作のワークインプログレス&初演プロジェクト**が進行中ですのでご注目ください。

* 曲の途中で調性を変えていくこと

** 詳細はP8特集ページをご覧ください。

楽器ミュージアム

ハープ(グランドハープ)

クラシック・バレエの名作「白鳥の湖」。王子とオデット姫が出会うシーンの前に流れる優美な分散和音を奏するのが、ハープです。

その原型は古代エジプトやメソポタミアの壁画に見られますが、現代の三角形のタイプは、10世紀頃のアイランドやウェールズの吟遊詩人の歌の伴奏楽器として使われたものです。

今日の(グランド)ハープは高さ約180cm、幅約100cmで、指のおなかの部分ではじく弦は全部で47本あり、その音域は6オクターブ半(!?)。ピアノならこの音域だと白鍵+黒鍵=82鍵(音)となりますが、47弦では黒鍵の数だけ足りませんね。実はハープには黒鍵の半音を出す弦がありません。

ルネサンス期には黒鍵の音を出す弦を加えた二重ハープが、バロック時代になると白鍵にあたる弦の両側に黒鍵に相当する弦を張った三重ハープが考案されたのですが、ともに弦間の隙間に指を通さねばならず演奏は至難。そこで弦の付け根のフックを手で動かして弦の長さを変えて半音上げる仕組みが開発され18世紀前半には楽器の下に足ペダルを付けその操作で弦の長さを変える今日のグランドハープにつながるタイプが発明されました。

かのマリー=アントワネットは興入れにこのハープを携え、パリの王侯貴族の女性間で大流行させました。今日、ハープ奏者に女性が多いのはその名

ダブルアクションでは、ペダル操作によって、各弦の上部にある小さなディスクが回転して弦の長さを変えて音の高さを変える



残なのかもしれません。

19世紀に入ると、今日のグランドハープと同じ2段階のペダル操作で半音を上げ下げする「ダブルアクション・ペダル」が開発されます。ペダルは、右に4本、左に3本あるので、ハープ奏者は演奏中、ペダルを両足でひっきりなしに動かして大忙し。その姿は水面下で水を掻いている白鳥にちょっと似ていますね。



イラスト：遠藤裕喜奈

ヨハン・シュトラウス2世 「記念の歌」

ヨハン・シュトラウス2世は、ヨハン・シュトラウス1世の長男として、1825年にウィーンで生まれます。父は誰もが知る作曲家で、自らの名を冠した楽団を四つ持ち、毎晩ウィーンの街を馬車で掛け持ちする人気者でした。

シュトラウス2世は、父に憧れ音楽家を目指すようになります。わずか8歳で隣人にピアノを教え、自分で稼いだ金でヴァイオリンを購入。毎日、鏡の前で父の身振り手振りを真似していました。ある日、そんな姿を父に見られてしまいます。激怒した父は、息子のヴァイオリンを奪い叩き壊します。かつて安酒場で酔っぱらい相手に日銭を得ていた父は、息子を音楽家にさせるつもりはなかったのです。彼は楽団内でも家庭でも絶対のリーダーでした。

やがてシュトラウス1世は若い愛人と暮らし始めます。息子は父の愛情を知らずに育ちます。夫への対抗心からでしょうか、母は息子の音楽家への夢を積極的に応援しました。シュトラウス2世は、宮廷歌劇場のヴァイオリン奏者からヴァイオリン演奏を、楽理の教授や宮廷付き教会のオルガン奏者からは音楽理論を学んだのです。

1844年、シュトラウス2世はデビューに向けて動き始めます。この時、母は夫に離縁状を叩きつけます。シュトラウス2世の音楽家デビューは、母と息子の父への挑戦でした。受けて立つ父は、ウィーン中の名だたる店に圧力をかけ息子の出演を妨害した、といわれています。

同年10月15日、シュトラウス2世のデビューコンサートは開催されます。定員600名の店は立錐の余地もない超満員でした。この時演奏された自作曲が「記念の歌」です。なんと19回もアンコールされたといえます。まさに若き天才の記念碑となる曲でした。公演後の新聞紙上には、「さよならランナー*! おやすみ、シュトラウス1世! こんにちは、シュトラウス2世!」という言葉が踊ったのでした。

*ヨーゼフ・ランナー Joseph Lanner (1801～43)はオーストリアの音楽家。シュトラウス一家に先立ってウィンナ・ワルツの様式を確立。代表作「宮廷舞踏会」など。

ヨハン・シュトラウス2世 Johann Strauss II (1825～99)
オーストリアの作曲家・指揮者。ヨハン・シュトラウス1世の長男。ウィーンを中心に活躍したワルツ王。代表作は「美しく青きドナウ」、「ウィーンの森の物語」、「皇帝円舞曲」など。オペレッタの最高傑作といわれる「こうもり」を作曲。

Creative
Neighborhoods
街と
住まい

第9回

横浜のみちを考える
「みちからはじまる
まちづくり」



オープンカフェのある「日本大通り」



「関内さくら通り」の『道路のパークフェス』



「元町商店街」で開催された「STREET THE MUSICAL」

野原 卓

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授。東京大学助手・助教などを経て現職。横浜市の都市デザインや大田区モノづくりのまちづくりを始め、現場とデザインをつなぐ都市デザインマネジメントなどの実践・研究活動を展開。著書に『まちをひらく技術』（共著・学芸出版社）『アーバンデザイン講座』（共著・彰国社）など。

「みち」は、誰もが一日一度は利用する、最も多くの人々が接する公共空間である。毎朝起きてまちに出かける際、まず始めに足を踏み入れる公共空間が「みち」だろうし、旅行で新しくまちを訪れた時に最初に目にするのも「みちからみたまちの風景である。このように、最も親しみある場所でありながら、あまりに身近すぎてつい見過ごしてしまう「みち」において、近年、道路を占有して行うイベントや、オープンカフェの取組み、駐車帯の区画を活用する取組み（パークレット）、あるいは、これらを実施するための暫定的な社会実験など、積極的な活用を通じて「みち」のあり方を再考する取組みが、全国各地で盛んに実施されている。

横浜市では、他の自治体に先んじて、1970年代から積極的に歩行者空間や人間的な公共空間を整備・運用する「アーバンデザイン」の取組みを重ねてきた。「くすのき広場」と呼ばれる、みなととまちをつなぐ「みちひろば」のデザイン。近代の空気をまとう風格と歴史を受け継ぐ「馬車道」の整備。歩行者専用の商店街を生むべく形成された「伊勢佐木モール」。そして、道路の幅を広げなくとも、各商店の1階部分を少しずつつこめることで歩行者空間を生み出し（1955

年）、その後、1985年・2004年と、30年に一度、官民協働で街路空間のアップデートを繰り返して行ってきた「元町商店街」などである。また、日本初の近代街路として整備された「日本大通り」は、一時期車中心のみちとなってしまうが、2002年、歩行者中心のみちへと再整備され、現在では、日本大通活性化委員会を中心に、オープンカフェの常設や、多彩なイベント空間としての利用など、みちの豊かさを高めるためのマネジメントがなされており、市民や観光客などの利用者にも親しまれている。

「関内さくら通り」では、2016年から年に一回、関内外に集まるクリエイターやデザイナーが中心となって、『道路のパークフェス』と呼ばれる、道路空間を用いながらどんな公共空間であるべきかを考えるインスタレーションやワークショップ、空間創出を図る取組みが行われており、そこでは、サイレントディスプレイ、チョークお絵かき、植栽の育成、図書空間、オープンウェディングなど、さまざまな活用の可能性が検証されている。

「みち」はみなつながっている。こうした豊富な公共空間へのかかり方がまちじゅうの「みち」に波及してゆくような新たな展開を期待したい。

かながわ
芸能
●
歳時記

第22回

子どもたちによる新春にふさわしい、めでたい踊り
福おどり
(小田原市根府川/寺山神社/1月)



「どんどや」の周りで踊る子どもたち

協力…小田原市文化財課
写真提供…小田原市文化財課

住所: 神奈川県小田原市根府川95-1
交通: J R東海道本線「根府川」駅から徒歩5分
日程: 2020年1月12日 14:00~
お問合せ: 小田原市文化財課 0465-33-1717



根府川の福おどりは、毎年正月の寺山神社の「道祖神祭り(どんど焼き)」で披露されます。

祭りの当日、境内の中央に竹や木で組んだ「どんどや」といって門松や正月飾りを入れて火をつけます。拝殿前の石段に道祖神の石像をおき、青い法被を着た歌い手の子どもたちの唄に合わせて、燃え上がるどんどの周りを踊り手の子どもたちが踊ります。

踊り手は頭に手ぬぐいを被り、おかめ・ひよつこの面を着け、真赤な着物を後ろ前に着て、腰には幣を垂らしたしめ縄を締め、両手には日の丸扇子を持ちます。なんとも愉快で可愛い姿です。

奉納の後は地域の家々を回り、玄関で「福の神が舞い込んだ」と言つて踊り、「疫病神をおっぱらえ」と言いながら町を練り歩きます。新春にふさわしい縁起の良いめでたい踊りです。

●同時期(1月開催)の他の祭り

囃子獅子(大和市福田/福田神社/1月2日、3日)
汐神楽(鎌倉市材木座材木座海岸/1月11日)

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
定期演奏会音楽堂シリーズ第15回

2020年1月18日(土) 15:00 神奈川県立音楽堂
崎谷直人(ヴァイオリン) 山田武彦(チェンバロ) 宮本益光(ソネット朗読) 大島 亮(ヴィオラ)
モーツァルト/弦楽四重奏曲第2番 ヴィヴァルディ/「四季」
モーツァルト/交響曲第25番 他
全席指定 S 4000円 A 2500円 B 1500円 ユース(当日25歳以下)1000円
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (平日10:00-18:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

企画展・収蔵コレクション展18「没後50年 獅子文六展」

2019年12月7日(土)~2020年3月8日(日) 開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで) 休館日:月曜日(1/13、2/24は開館)、12/28~1/4
横浜に生まれ、昭和を代表する流行作家として一世を風靡した獅子文六(1893~1969)。本展では小説家として、演劇人として、激動の昭和を生きたその生涯と、エスプリとユーモアにあふれる作品の数々を紹介いたします。観覧料:一般500円(65歳以上、20歳未満割引あり/中学生以下無料)
TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県立近代美術館 葉山

コレクション展「音をみる、色をきく美術が奏でる音楽」

2019年9月21日(土)~12月25日(水)
開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで)
休館日:月曜日(9/23・10/14・11/4は開館)
観覧料:一般250円 20歳未満・学生150円 65歳以上・高校生100円
TEL.046-875-2800 www.moma.pref.kanagawa.jp/

神奈川県文化課

浮世絵カフェ

神奈川県民ホール6階 英一番館で、次世代型エンターテインメントショーがスタート。世界的に活躍するパフォーマンス集団「白A(シロエー)」によるデジタル映像とテクノサウンド、ダンスパフォーマンスが融合した公演を、お食事とともに楽しみいただけます。
www.ukiyoe cafe.com/

1日2回公演(19:00/21:00)開場は開演の1時間前、火・水定休
料金:大人(15歳以上)3000円、3歳以上15歳未満1500円
購入サイト:peatix.com/group/7168973/events
TEL.045-285-0220 (県文化課)

REVIEW

音楽堂アフタヌーン・コンサート 山田和樹指揮 東京混声合唱団 「合唱 meets ジャズ！」

2019年8月23日(金) 神奈川県立音楽堂



©青柳 聡

毎年恒例、指揮者・山田和樹の楽しいトークとともに東京混声合唱団（東混）の極上のハーモニーで、午後のひとときをお楽しみ頂いている音楽堂アフタヌーン・コンサートの夏編。今回は「ジャズ」をテーマに歌の世界を展開しました。作曲家・ピアニストの森田花央里がジャズアレンジしたつかしい日本の歌で軽快にスタート。日本各地に伝わる紙漉き歌をアレンジした上田真樹の新曲では会場内を歩きながら歌い上げ、美しい声が重なり響きあいました。さらに森田作曲による児童合唱組曲『くまモン』では緑区制50周年記念中学生合唱団が出演。“ご本尊”とマエストロとの掛け合い(?)で会場を大いに沸かせました。

ラストは、山下洋輔をゲストに迎えたピアノと合唱のフリー対決で合唱とピアノが交錯。照明と動きのある演出でドラマチックに盛り上げ、新しい世界が音楽堂に広がりました。

お客様の声

新しい試み大成功、中学生も上手。毎年楽しみにしている。(50代)

ジャズと合唱、音楽に区別はないことを学んだ。(女性)

ジャズは馴染みがなかったが、山田さんのユーモアあふれるリードで楽しめた。(60代男性)

施設は古いかもしれないが、今後も横浜らしい自由な発想の企画をお願いしたい。(60代女性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング / アサヒビール株式会社 / アズビル株式会社 / 学校法人岩崎学園 / 株式会社ヴォートル / 株式会社エス・シー・アライアンス
株式会社NHKアート / 株式会社勝烈庵 / 一般財団法人神奈川県教育福祉振興会 / 公益財団法人神奈川県結核予防会 / 神奈川県信用保証協会 / 株式会社神奈川孔文社
株式会社神奈川保健事業社 / 神谷コーポレーション株式会社 / 川崎北ロータリークラブ / 川本工業株式会社 / かをり商事株式会社 / 株式会社共栄社 / 株式会社ケイエスピー
株式会社KSP / 株式会社合同通信 / コトブキシーティング株式会社 / 株式会社シグマコミュニケーションズ / 株式会社ジェイコム湘南・神奈川横浜テレビ局 / 株式会社清光社
月島機械株式会社 / 株式会社テレビ神奈川 / 東工株式会社 / ナイス株式会社 / 株式会社日建設計 / 日産自動車株式会社 / 日生商工株式会社 / 日総ブレイン株式会社 / 日本発条株式会社
株式会社野毛印刷社 / パナソニックESエンジニアリング株式会社 / 平安堂薬局 / 株式会社ホテル、ニュージェランド / 一般社団法人本牧関連産業振興協会 / 丸茂電機株式会社
三沢電機株式会社 / 森平舞台機構株式会社 / ヤマハサウンドシステム株式会社 / 株式会社有隣堂 / 株式会社豊商會 / 株式会社ユニコーン / 株式会社横浜アーチスト
横浜新都市センター株式会社 / 横浜信用金庫 / 弁護士法人横浜パートナー法律事務所 / 横浜ビルシステム株式会社 / 株式会社ワイイーシーソリューションズ (匿名:2社)
永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/黒瀬博晴/小山明枝/高岡俊之/中澤守正/橋本尚子/藤原靖也/三宅浩二/渡邊政彦 (匿名:3名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 神奈川総合設備株式会社 / 神奈川トヨタ自動車株式会社 / 株式会社嶋陽軒 / 株式会社野毛印刷社 / 株式会社富士住建 / 三菱地所株式会社

(敬称略 2019年10月1日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ：本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/



神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー略して「マグカル」の取組を推進しています。

マグカルQ

人生的一幕を、観に行こう。

神奈川文化プログラム



